

海性堆積層の砂層（層厚20～30メートル）が、洪積層では砂礫層（層厚5～10メートル）が、基盤岩である第三紀層では砂質凝灰岩がそれぞれ帯水層となっている。

石巻地区模式柱状図

地質時代	地 層 名	柱 状 図	厚さm	地 質	備 考
第四紀	表 土		<10	細～中粒砂	帯 水 層
	氾濫原堆積層		<15	ローム・細粒砂 （有機物まじり）	軟 弱 層
	低 湿 地 堆 積 層		20～30	細～中粒砂 （ローム層をはさむ貝が らまじり）	帯 水 層 軟弱層
	浅 海 性 堆 積 層		5～10	砂 礫 （ローム層を含む）	帯 水 層
第三紀	扇 状 地 堆 積 層			泥 岩 砂質凝灰岩	帯 水 層
第三紀	小 牛 田 層 （竜ノ口層）				
	広 淵 層				

軟弱層の分布状況は、浜堤と浜堤の間や河川の自然堤防と自然堤防の間などに形成された低地帯では低湿地堆積層の泥炭層や有機質粘土層が最大層厚15メートル前後で、さらに、沖積層の下部では海成粘土層が15～20メートルの層厚でそれぞれ分布しており、特に稲井低地帯や石巻市東部の海岸部では30メートルの層厚になっているところもある。

### 3) 迫川水系地下水盆（若柳・登米地域）

本地下水盆の範囲は、迫川本流及び二迫川、三迫川の流域と、江合川水系地下水盆より東部、北上川水系臨海地下水盆より北部の北上川流域とする。

特徴としては、迫川流域の丘陵と堆積盆が入り組んだ形の枝状の地下水盆と、北上川流域の広範囲にわたる溺れ谷を堆積層が埋積して形成された平野部からなっていることである。

地下水盆の基盤岩は、主として第三紀層で凝灰質砂岩や頁岩となっており、着岩深度は、佐沼付近が最も深く40メートル以上と推定される。

帯水層としては、洪積層では扇状地堆積層の砂層（層厚30メートル前後）が、基盤岩である第三紀層では凝灰質砂岩がそれぞれ帯水層となっている。

軟弱層の分布状況は、伊豆沼、長沼、内沼などを中心に厚く堆積しているものと推定され、沖積層の低湿地堆積層には泥炭層や有機質粘土層が堆積しており、北上川の氾濫原として広

く分布しているもの

地質時代	地 層 名
第四紀	表 土
	氾濫原堆積層
	低湿地堆積層
第三紀	扇 状 堆 積
	瀬 峯

### 4) 江合川水系地下

本地下水盆の範囲は、館丘陵、西は玉造丘陵までの間とす  
ていること、両河川  
である。古川市を

地質時代	地 層 名
第四紀	表 土
	氾濫原堆積層
	低 湿 堆 積
第三紀	扇 状 堆 積
	小 牛 田 層